

骨髄提供後、急性C型肝炎を発症したドナーについて

財団法人骨髄移植推進財団
理事長 正岡徹

2月上旬に骨髄バンクを介して骨髄提供した30才代の男性の方が、提供後、約40日後に急性C型肝炎を発症していることが判明しましたので、ご報告いたします。

現在、ドナーが入院している施設からの報告では、対症療法により症状は改善傾向にあるとのことです。

現段階では骨髄採取との因果関係は不明ですが、骨髄移植推進財団では、調査委員会を設置し、今後、感染ルートなどについて情報収集、調査を行うこととしております。

調査結果につきましては、判明次第ご報告いたします。

概要

2月上旬に骨髄バンクを介して骨髄提供した30才代男性の方から、3月下旬「1週間前から腰に痛みがあり、強くなっている。腰全体と脇腹の背中側が掴まれるように痛い」との連絡がありました。4月上旬に近医の内科を受診したところ、肝機能に異常が認められ入院となり、検査を実施しました。

4月中旬に入院先の主治医より急性C型肝炎との検査報告がありました。現在、ドナーの方は入院治療中であり、対症療法により症状は改善傾向にあるとのことです。

現段階では骨髄採取との因果関係は不明ですが、骨髄移植推進財団では、外部の専門医を加えた医師による調査委員会を設置し、採取病院の院内感染の可能性や、ドナーの方の生活状況の確認と調査を開始することとしました。調査結果につきましては、判明次第、ご報告いたします。

また、非血縁者間骨髄採取認定施設に対し、緊急安全情報を発信し、注意喚起を行いました。